

setoyaki style book

セトリイ

瀬戸からはじまるやきもの新生活。

SETO
YAKI×MONO



セトリイ 第六号

発行/瀬戸焼振興協会 〒489-8701 愛知県瀬戸市追分町 64-1 TEL: 0561-88-2651

E-mail: kogyoshinko@city.seto.lg.jp Web: <http://www.setoyakishinkokyoai.jp>

企画・編集/日笠真理・岩田舞海 || 写真/カメイヒロカタ || 意匠/studio05 || 印刷/株式会社 腕デザイン事務所

2015.3



瀬戸焼を生み出す「宝の山」

瀬戸のやきものづくりを支える陶土層は、1000万年以上前という気の遠くなるような昔にたい積したといわれています。この陶土層からは、「木節(きぶし)」や「蛙目(がいろめ)」といった良質な粘土とともに、ガラスの原料の「珪砂(けいしゃ)」が豊富に産出されてきました。

特に瀬戸産の木節粘土は、質が良いことで世界的にも有名。粘性が高く、加工がしやすいことから、明治時代に欧米で開催された万国博覧会に出品された大型染付製品から、繊細な表現が必要とされるセトノベルティまで、多種多様なやきものに使われてきました。

さまざまな瀬戸焼を生み出してきた瀬戸の陶土層は、まさに「宝の山」であり、千年余の歴史を有する陶都瀬戸の発展を語る上でも欠くことのできない貴重な存在といえます。



陶土・珪砂採掘場（瀬戸市上陣屋町）
※本写真は2004年撮影のもので、現状は変化しています。なお、一般の方は採掘場内に入り、見学することはできません。

「土練り」の呼吸

つちね

陶芸は土と向き合う仕事である。

「土練り三年」と言われるように

作陶の最も基本となる技術が、

土練り＝粘土をこねるという仕事。

その最終工程である菊練りで、

土の堅さを均一にし、

土の中の空気を抜いていく。

作品の善し悪しを決めるからこそ、

真剣勝負で丹精込め、土を「かまう」。

つくり手の呼吸と巧みな力加減で、

菊の花びらが重なるようリズムミカルに

土に命を吹き込む、大切な手の技。🍵



「御深井湯呑」陶芸家 加藤唐三郎さん（唐三郎窯）／日本茶カフェ&日本茶専門店「茶のいろは」 鎌田恵栄さん



おふけ 御深井と日本茶 時を継ぐ一服

名古屋城縁のやきもの。

瀬戸市東部に位置する赤津地区は、一千年以上の歴史を持つ窯の里。伝統的工芸品の赤津焼は、多彩な釉薬を用いた赤津七釉が特徴で、御深井（おふけ）もそのひとつ。

「御深井」は、江戸時代初期に尾張徳川家が名古屋城御深井丸の庭に築窯し、尾州御庭焼として焼かれたことに由来する。慶長十五年、陶祖・景正の直系として徳川家より命を承け、代々御用窯を勤めたのが「唐三郎家」。加藤唐三郎さんは、その系譜を今に継ぐ当代三十一世にあたる。

茶陶の名手であり茶の湯も嗜む匠による湯呑茶碗の凛とした佇まい。そこに注がれた緑茶からは、みずみずしい瀬戸の香りが立ちのぼる。

一彫りに丹精込めて
さらに新たな領域へ。

透明感のある淡い水色。鉄分を含む陶土に、長石（ちようせき）と木灰による釉をかけ、還元焼成（酸素を抑えた焼成方法）をすることで、上品な「御深井」の色が生まれる。当代唐三郎の御深井は、端正な彫文・刻文が施され、主に紺碧の呉須（こす）の他、暗赤色の辰砂（しんしゃ）を用いて彩られる。「高校卒業後陶房に入り、父のもとで修業を重ねてきまし

たが、一九六〇年代後半以降、「窯焼き」から「陶芸」に光が当てられ、私の意識も変わりましたね。御深井は代々窯に継承されてきた技法のひとつですが、作品は伝統をベースに自分なりの表現を確立したいという思いで創作しています。

初代は瀬戸陶業の祖「加藤四郎左衛門景正（通称・藤四郎）」という圧倒的な系譜ながら、創作においては確固たる独創性を追い求め続けている。線のみで様々な図柄を表現する刻文の技は、細工に誤りのきかない真剣勝負。高い集中力とすばい構成力、精緻な技術力が求められる。

「筆を持つのは右利きなのに、文様を彫る時はなぜか左笑」。どの作品にも必ずオリジナルの文様を入れます。自然の風景以外に、洋服やCGの幾何学模様をヒントにすることも多いかな。基本は「本の線」。

文様と釉薬とのマッチングが重要。御深井は深く広く、黄瀬戸は浅く…など、釉薬によって細さ・深さ・幅をかえています。

高い技術が認められ、唐三郎さんは平成二〇年に御深井技法の瀬戸市無形文化財保持者にも認定された。伝統の上にも「当代唐三郎」独自の意匠を重ねた作風は、誰にも真似できない領域である。

普段は大の日本茶党という唐三郎さんは、湯呑みの重みにもこだわるとか。対する日本茶カフェ&日本茶専門店「茶のいろは」店主 鎌田恵栄さんは、瀬戸で陶芸を学んだ経験もあり、「窯元・作家さんとの交流やお茶を楽しんでいただく器も大切にしています」と語る。一服を味わう憩いの場であり、お茶を通して瀬戸焼を伝える「つなぎ手」としても期待を寄せられている。

日本茶カフェ&日本茶専門店「茶のいろは」
店主 鎌田恵栄さん

愛知県瀬戸市平町1-76
TEL: 0561-58-3149
営業時間: 8:00~18:00
定休日: 水曜日・第3火曜日
<http://ameblo.jp/cha-no-iroha>



唐三郎窯

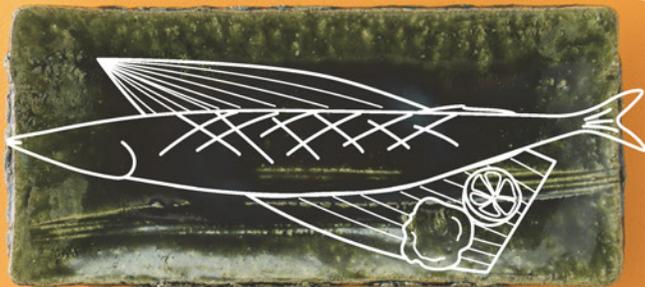
愛知県瀬戸市窯元町80
TEL: 0561-82-4832
<http://www.touzaburougama.com>



加藤 唐三郎さん



い



織部長皿／棚橋淳

ろ



楽織部十草茶碗／小林利山

は



右：黒織部豆皿／徳津森 宮地生成
左：黄瀬戸平湯呑／稲山陶苑

いろいろ



器の案内人
日笠真理

気に入って買った器。

でも、いざ使ってみると、

あれ？こんなはずでは・・・

意外に出番が少なかったり、

ちよつとサイズが大きかったりと、

思っていた通りに食卓に

馴染めなかった経験をした人は

多いのではないのでしょうか。

失敗しない選び方・買い方、

「いろいろ」でおぼえておきましょう。

い

料理が三つ以上浮かぶものを。

焼き魚、卵焼き、おむすび・・・

よく作る定番メニューが三つ浮かべば、

長いお付き合いができます。

ろ

自分のサイズに合うものを。

お茶碗は両手を輪にした大きさを基準に。

自分サイズだと手に美しく納まります。

は

重なるのよいものを。

うまく収納できるかは重要なポイント。

実際に重ねて確かめて。

自然を身近に 感じる暮らし

瀬戸在住の苔玉アーティストとして知られる安藤豊彦さんは、子どもの頃から近くの里山で自然に親しんで育ったとか。自作の織部作品に納められた苔玉は、野にあるように、どれも生き生きと表情豊か。「土を使わないハイドロカルチャー（水耕栽培）と同じ考え方で、苔玉づくりをしています。かつて瀬戸市から展示会ディスプレイのために植物用の陶器制作を依頼され、織部の緑を生かした「苔織部」を考えついたのがきっかけでした」。(安藤さん)

安藤さんと同様に「土を使わないガーデンング」を手がける渡辺智恵さんは、名古屋市中心部で生まれ育った都会っ子。「限られた借家の空間で盆栽や園芸を楽しむ両親を見て育ちました。その影響か、私もマンシヨンやビル等のバルコニーや屋上の特殊空間の緑化を主に手がけるように。苔玉はインテリアに使うことも多く、安藤さんの作品にも興味がありました」。(渡辺さん)

互いの自然への思いに共感しあうふたりの会話は、多彩で奥深い。

渡辺：地面のない場所＝屋上やバルコニー等の特殊空間の緑化は、都会生活や共働きの家庭でも、もっと身近に自然と触れあえる機会が持てるようになればと思います。



協力：東風山野坊



自然造形作家
安藤 豊彦 さん
瀬戸市「東風山野坊」主宰
<http://www.tofu-sanyabou.com>
苔玉を瀬戸の織部と組み合わせ、独自の自然観を表現。現代美術家・安藤ムイとしてドローイング・彫刻作品を創作。'08年瀬戸市美術展大賞受賞。

環境再生医
渡辺 智恵 さん
「てるかガーデンデザイン」主宰
<http://www.teruka7787.com>
OLを経てインテリアコーディネーター、ガーデンコーディネーターに。人間工学・環境心理学を取り入れた住まいづくりや屋上等特殊空間の緑化をプロデュース。

協力：五山楽窯房
<http://www.15.ocn.ne.jp/rakuyou>

安藤：僕の苔玉ワークショップでも、「土は使わない」と言うときまず驚かれます。土を使わないメリットは、雑菌やバクテリアの繁殖を抑えることができ、食卓や飲食店でも身近に緑を楽しんでもらえる点ですね。

渡辺：なるほど、普通の苔玉とはまったく違う発想で、面白いなと思いました。

安藤：自然は本来あるがままで、それが「栽培する」という行為＝プロセスのすべてが「表現」なんです。そういう意味で僕の苔玉は、朽ちることまで含めた「表現栽培」とも言うべきクリエイティブな世界だと、自負しています。

渡辺：素敵！「植物は好きだけど面倒がみられない」という人も、苔玉というアートを部屋に置くことで、毎日生きた自然

との接点を持つことができますね。「里山保全」と聞いてなかなかピンとこなくても、身近な自然を感じることから環境への意識が芽生えてくれれば。

安藤：よく「枯れませんか？」と聞かれるんですが、生きているものだから、そりゃ枯れることもあるよ、と。大切なのは枯れないことより、自分がいかに目をかけ手をかける気持ちを持てるかということ。自然はそれに素直に応えるのみ。

渡辺：たしかに「便利ならいい」だけでは、育てる側の心が豊かに育ちませんね。

安藤：良い点だけを見るのではなく、悪い部分も含めて「自然」だから。植物は枯れるものだし、陶器は割れるもの。どちらもその命の鍵は、扱っひとの向き合い方次第なんですよね。



制作：「アトリエぼだいじゅ」
鈴木早苗さん

ホームパーティーとまではいかなくても、来客時や、「お茶でもいかが」と気軽に誘う時に、ティーカップや湯飲み、お茶菓子をセットしておもてなしできるティーマットは、とても便利。定型は特にありませんが、ランチョンマットより少し小さい20cm×30cm、A4書類サイズぐらいが使いやすいようです。端切れを縫って作るのも楽しいし、土の風合い豊かな瀬戸焼と合わせるなら、天然素材で織られた布もなじみが良さそうです。

瀬戸在住の作家鈴木早苗さんが手がけるティーマットは、なんと「木の布」製。和紙にも使われる「楮（こうぞ）」の樹皮を、収穫から繊維加工、燃糸（ねんし）、染色まですべて手作業で行い、一枚の布に織り上げていく。その風合い、色彩はなんともかろやか、和みのひとときをやさしく彩ります。



瀬戸産の楮を採取し、皮剥ぎの段階から自ら手掛け、糸づくり。手をかけただけ、器にやさしい布に仕上がる。
写真：木の布ティーマット 鈴木早苗さん/カップ&ソーサー 加藤リエさん
協力：瀬戸・ぎんざ・灯工房（ギャラリー-かわらばん家内）愛知県瀬戸市朝日町36 TEL:0561-89-6789

オトコのウツワ



大森 康弘さん（会社員/名古屋市）

「晩酌を嗜む」



お気に入りのギャラリーや作家さんの個展などで、ひとつひとつ吟味し、手に入れた器たち。どれもつくり手の持ち味や技に惚れ込んだ、愛着の品ばかり。「やきものとの出会いを求めて、休日は妻とあちこちに足を運びます。六古窯の1つである瀬戸は伝統に裏づけられた技術が今も生きていて、特に興味深い作家や窯元さんが多いですね」と大森さん。選ぶ基準のひとつは「盛りたい料理が浮かぶこと」。自身で工夫を凝らした酒肴と器を引き立てる奥様の順江さんお手製のマットや仕覆（しふく）は、相性抜群！めぐすは、おしどり器コレクター！

写真：伊藤千穂さんのパッチワーク丸皿には、大森さん手製の燕とツナと梅の和え物。
深見文紀さんの「漫画織部」徳利&ぐい呑は、名入りの箱書きもお宝。



器を愛でる 手の仕事

「室礼」
のこころ

ティーマット

ひとつひとつ、かたちあるものを伝え継ぐ。心づかい。「お気に入りの器を大切に使用したい」という気持ちを、和の工夫と手仕事の中にみつめました。

瀬戸焼ノート もっと知りたい！陶都・瀬戸の「えとせとら」 瀬戸の陶工たちが描かれた、「瀬戸焼包装紙」。

やきものの街・瀬戸で買い物をすると、窯元・陶磁器問屋さんオリジナルの包装紙に包んでくれることがあります。今から30年ほど前、せともの祭用に作られた包装紙には、江戸時代の瀬戸焼の窯屋や陶工が働く姿がユーモラスに描かれています。お客さんがどこで買ったものかわかるよう、屋号を後刷りで入れることもできます。



現在「瀬戸蔵
セラミックプラザ」で
使われている瀬戸焼包
装紙。ギフトに人気。



ろくろ、うわぐすり、窯出し...

窯ぐれ(陶工)の働きぶりが鮮やかに伝わる絵の作者は、瀬戸市内で教員も務め、「染付の健太郎先生」と慕われた故・加藤健太郎さん。深川神社一の鳥居前にかかる宮前橋の陶板には、包装紙と同様の絵柄が瀬戸染付で描かれています。

瀬戸焼の包装紙・梱包資材の多くを取り扱う専門店「杉乃屋紙店」。「先代が瀬戸陶磁器卸商業協同組合からの依頼で制作。現在も1枚から販売しています」と井上伸也社長。

株式会社杉乃屋紙店 愛知県瀬戸市陶原町5-50 TEL:0561-82-5383

せとみみ Column

一見の価値あり！「六角陶碑」に再注目

陶祖800年祭記念事業の一環として、2014年4月にリニューアルした「陶祖公園」。この公園内にある陶祖藤四郎の偉業を称える「六角陶碑」（瀬戸市指定文化財）は、慶応3年（1867）に建立。高さ4.1m、総数29個のやきもので構成された日本最大の陶製碑で、内部には「法華経」と推定される経文が書かれた石が納められています。

陶祖公園：愛知県瀬戸市藤四郎町



かつて使われた窯道具を積み重ねて塀をつくった「窯垣の小径」や登り窯跡など、昔ながらの陶都の風情を残す洞地区には、「陶の路」に沿って多くの窯元さんや陶房が並びます。最近では窯めぐりイベントの開催や、若手作家が工房をシェアして作陶活動を行うなど、新たな動きも。この地区で注目の気鋭の作家さんを紹介します。



セトリエ動物園

竹内礼さんのアトリエにて今年の干支の羊さんがメメエをろってお出迎え。いいことたくさんありそう!?



赤絵を生かした、「キャラ陶器」

Takeuchi Aya
竹内礼さん

瀬戸市新世紀工芸館第1期生で、瀬戸市内に自身の窯を開き、個性あふれる作品を創作。独自の赤絵顔料を使い、「おもちゃのように楽しくて、日常の使い勝手も考えた器を」と、実用面も一工夫。動物・忍者・武家・浮世絵シリーズなど、味のあるキャラクターのファンも多い。工房を訪ねてみたい人は事前にお問い合わせを。愛知県瀬戸市南東町55 (陶博園内) ☑ ayayaism73@gmail.com <http://ameblo.jp/omochaim>



やきもの好きが集う、サロンの空間

Yamauchi Kasumi

山内香寿美さん(工房じぐる)

窯垣の小径資料館隣の古民家との出会いが、『工房じぐる』のはじまり。「陶芸体験を通じてやきものを身近に感じてもらえたら」と、自らの作陶と並行して教室を主宰。土と釉の素朴な風合いを生かした器は、料理やスイーツに合わせやすく、カフェからの注文も多い。ギャラリーで話しながら選べるのも、楽しみのひとつだ。

愛知県瀬戸市仲洞町37 <http://jiguro.exblog.jp>
TEL:090-1723-3363 (担当:山内)



白い陶肌に煌めく、一筋の光の印象

Umeda Hiroshi

梅田洋さん

赤津・霞仙陶苑で陶芸の基礎を身につけ、登り窯の窯師も経験。独立して『工房うめ田』を開窯。出身地の新城市湯谷温泉郷(旧鳳来町)にある旅館「はづ合掌」の器を専任で手がける。御本手や白陶に、金銀彩、プラチナを取り入れた優美な作風に定評がある。主に受注生産で制作。最近では個展や現代工芸展への出展など、造形的な作品づくりに取り組んでいる。

愛知県瀬戸市南東町9
TEL:090-7313-5899



ダイナミックにして繊細な青磁・白磁

Ito Hitoshi

伊藤準さん

武蔵野美術大学大学院、瀬戸市新世紀工芸館を修了後、瀬戸市内に開窯。海外陶芸展への招聘も多数。名古屋千種区のギャラリー「道草」のオーナーも務めるなど、グローバルに活躍。写真の作品は直径44cm×高さ21cm。おおらかで流麗な円を描くろくろの仕事、白と青とが溶けあう釉の豊かな表現に、つくり手の美学がうかがえる。

愛知県瀬戸市南東町55 (陶博園内)
☑ h-itou@hkg.odn.ne.jp



練り込み初!? 透かし技法の新作登場!

Mizuno Tomoro

水野智路さん

大学では工芸デザインを学ぶ。祖父(水野双鶴氏)から父(水野教雄氏)へ、そして三代目として練り込み技法を継承する中で、独自のセンスを生かしたパンダやマトリョーシカなど「カワイイ系」作品で女性の人気を獲得している。最新作は磁器土を用いた「透かし」に挑戦! 練り込みとは思えない、やわらかな光の陰影に癒される。

<水野教雄陶房> 愛知県瀬戸市東町5
TEL:0561-84-4150
<http://colorclayworks.blog.fc2.com>



セトリエさんと体験しよう! 第六回 転写

カップ&ソーサーや小皿などの磁器に、専用の転写紙を使ってオリジナルの器を作れます。まず、好きな絵柄の転写紙を選び、白磁の器を決めます。どの部分をどの位置、配置で貼るかイメージし、転写紙をカット。表面を上にして一分ほど水に浸しておきます。貼りたい位置に転写紙をのせ、親指で軽く押さえたまま下の台紙をずらし、抜き取ります。白磁面に密着するよう、中心から外側に向けて放射線状にティッシュで空気と水を押し出していきます。そのまま乾燥させ、後日スタンプが専用窯で焼成して完成!



アトリエカノン

愛知県瀬戸市南仲之切町41-9
http://atelierkanon.main.jp

- 営業時間: 10:00 ~ 17:00 (体験受付は14:30まで)
- 定休日: 月・火曜日
- 申込先: 0561-58-7804
- 参加費: 2時間/1,000円 ~ ※転写シート・焼成代含む器のみ実費(50円~)

※後日、焼き上がった作品をお渡しします。<郵送の場合: 別途700円~>

貼る時にしわが寄らないよう、小さめに、絵のギリギリ近くまで切るのがポイント。



台紙がずれないか少し緊張...つるつると簡単に外せます。「少々ずれても、水を付けて直せるから大丈夫!」と講師の稲生美恵子さん。



右: 瀬戸焼伝統の織部や御深井も、鮮やかに再現。
中: 海外へのPRにも力を入れてきた寺田悟会長。

瀬戸がかわる・瀬戸をかえる
リセット

リサイクル陶器「Re瀬戸」の販売・PR

家庭で不要となった廃陶磁器を回収し、粉砕して従来の陶土に配合したものを原料に作られるリサイクル陶器「Re瀬戸」。ネーミングは、「リデュース・リユース・リサイクル」の3つの「R」+せともの「瀬戸」から。瀬戸市も会場となった日本国際博覧会「愛・地球博」を機に、市民・企業・行政が共同で取り組む陶磁器リサイクル事業としてスタートし、愛知県陶磁器工業協同組合と組合員企業を中心に企画開発を進めた。'08年から瀬戸市内の数社が陶器土での共同開発に取り組み、従来の1.5倍もの強度での商品化に成功。こうした動きの中、陶磁器販売商社として販路開拓やPRに尽力してきたのが株式会社山長陶苑。「廃陶磁器の配合率50%は、窯業資源の保全につながり、また従来より低温で焼成することで、省エネおよび二酸化炭素の発生も抑制できます。再生粘土の配合率を高めるのは技術的に難しく、この配合率での商品化は、他地域の再生陶磁器の中でも瀬戸だけと言われています」。(寺田悟会長)

「瀬戸にしかできないリサイクル陶器」として、首都圏の大手百貨店などにも積極的に売り込み、販路を開拓。さらに織部や御深井など伝統の意匠を現代のくらしにマッチするデザイン開発など、瀬戸らしい温故知新の発信をめざしていく。

愛知県瀬戸市赤津町10 TEL: 0561-82-3072

セトヤキ・ギフトで贈り愛

瀬戸の多彩なやきものの中から、プロの目で選んだイチオシをご紹介します。

緻密な細工は集中力を要する仕事。帆船の精緻なラインも息を飲むほど美しい。



クラシックなモチーフがいま新鮮! 石や貝殻に浮き彫りを施すカメオを、創業時からの厳選した瀬戸の「土」と職人歴三十余年の精巧な技で創作。きめ細かくなめらかな、上品な陰影をひとつひとつ手仕事で仕上げている。妥協を許さぬ誠実な仕事は、信頼の証。時を経て変わらぬ色とクオリティを一緒に選んで贈りあってみませんか?

「陶彫カメオ」

ふたりの記念日に



とうか 陶華-TOHCA-

1972年創業。先代が培ってきたノベルティの技術を生かし、瀬戸で唯一の陶彫カメオ(陶磁器)を考案。現在2代目加藤誠吾氏が新商品開発にも取り組む。

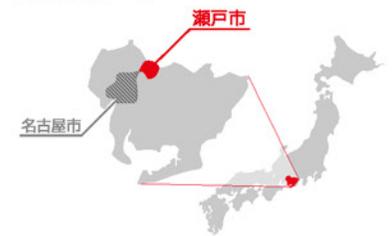
●ブローチ・指輪・帯留・カフス・タイチェーン・ループタイの他、社章・ピンバッジなど、オーダーメイドも可
愛知県瀬戸市東町28 TEL: 0561-21-3857 営業時間: 9:00~18:00 不定休 http://www.tohca.com
※お越しの際はお電話にてお問い合わせください。

セトリエ字引 | 06.

【セトリエ】

- ①瀬戸+アトリエ=瀬戸のまち全体がやきもの文化を生み出すアトリエという意味。
- ②瀬戸焼の魅力を紹介するフリーペーパー。つくり手とつかい手をゆるやかに結ぶ新しい世界を提案・発信。

【愛知県瀬戸市】



『セトリエ』の最新号から
バックナンバーをチェック!

瀬戸焼振興協会ホームページでは、「セトリエ」の情報を毎月掲載。最新号をはじめ創刊号~5号のバックナンバーをすべてPDFでダウンロードできます。プリントアウトしてぜひ保存版に。

瀬戸焼振興協会 www.setoyakishinkokyokai.jp

セトリエ公式 Facebook
(フェイスブック) ページ

誌面に掲載しきれない内容のほか、各展覧会・イベント等の情報や「瀬戸焼」に関する最新情報を随時掲載。下記URLもしくは「セトリエ」のキーワードでインターネット検索してご覧ください。皆さんからのコメントもお待ちしております。

公式FBページ www.facebook.com/setolier

Click!

セトリエ

